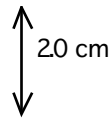


” Japan Hardcopy 2003” 予稿集原稿作成要領

予稿集は、発表者から提出された原稿を直接オフセット印刷により原寸に印刷して作成します。
原稿2部を学会事務局へ期日までにご送付願います。

1. 原稿送付先 : 〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内
 日本画像学会 JH2003 係
2. 送 付 部 数 : オリジナル原稿1部、コピー原稿1部(座長用)の合計2部を送付してください。
3. 予稿集用原稿締切: 2003年4月25日(金) 厳守
4. 原 稿 枚 数 : 4枚以内
5. 原 稿 サ イ ズ: A4用紙<縦>に印字してください。刷り上りは原寸です。
6. 原 稿 書 き 方:
 - 6-1 用紙はA4<縦>に、天地左右2.0cm以上の余白を取ってください。
 - 6-2 第1頁には「題名、氏名、所属(いずれも和文および英文)、英文要旨(100 words程度)」を記入し、その下に「本文」を書きます。本文はまず、左側カラム(500~600字程度)を書き、次に右側カラムを書きます。脚注には所属機関などの「郵便番号、住所(連絡先)」を和文と英文でそれぞれ書いてください。
 - 6-3 発表者氏名右上に*印を付け、所属機関および脚注の連絡先と対応させます。
 - 6-4 発表者が複数の場合は、講演者の下にアンダーラインを付けます。
 - 6-5 2頁以降は、用紙(A4縦)全面に(一行目から)本文を書きます。
 - 6-6 図、表のタイトルおよび説明は、英文で書きます。
 - 6-7 図面は明瞭なものとするため、直接プリントするか別葉を貼りつけます。写真(白黒)はコントラストの高いものを用い、裏面に「氏名および上下の指示」をつけて用紙に貼りつけます。
 - 6-8 用語は、専門分野が異なる方にも理解できるように平易なものにします。略語を用いる場合には、最初に出てくる略語に()を付け省略しないものを記入して下さい。
 - 6-9 単位系は、S I 単位とします。
 - 6-10 参考文献には、「著者、題名、文献名、巻、号、発行年、頁」を記入します。



題名：ゴシック体 15 ポイント

氏名（発表者）*，氏名**：明朝体 14 ポイント

*所属：明朝体 12 ポイント

所属：複数氏名で所属が異なる場合、で対応をとる

英文題名：Times 系 12 ポイント

英文氏名：Times 系 11 ポイント

所属（英文）：Times 系 10 ポイント

The abstract should be written with around 100 words and *****
***** 《英文アブストラクトは、Times 系 10 ポイントを使用し、100
words 程度にまとめる。行間隔は 1 行分とする。》

← 150mm 程度 →

1. はじめに

これは、日本画像学会 JH xxxx 予稿集原稿
見本となっています。投稿の際、著者は「予稿集
原稿作成要領」を熟読のうえ、この体裁に原稿を
仕上げて下さい。



2. 書体および段落

2-1. 文字サイズと改行

著者名は、15 ポイント 32 字以内、これを越
える場合は行を改める。著者欄は、中央に合わせ
る。本文は、10 ポイント 22 字の 2 段組とし、
段間は、10 mm あける。

2-2. 書体

題名、章および節名は、ゴシック体とする。本
文は、明朝体とする。英文題名、著者名は、
Times 系とする。

2-3. 図、表

タイトルおよび説明文は英文で書き、図面は明
瞭なものとするために直接プリントするか、別葉
を貼り付ける。写真は、白黒のコントラストの高
いものを用いて裏面に氏名と上下の指示を記入の
うえ、用紙に貼り付ける。

見出しは、表は上部、図は下部にそれぞれ
Fig. 1、Table 1 のように示す。文字書体／サイ
ズは、ゴシック体 10 ポイントとする。

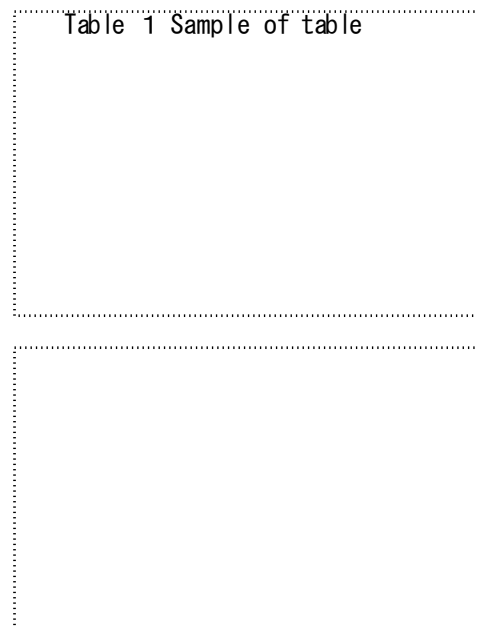


Fig. 1 Sample of Figure Arrangement

参考文献

- 1) 日本太郎，画像花子：“JH 2000 原稿の書き方”，
日本画像学会誌，Vol. 84, No. 2 (1999) pp. 612-614
- 2) Nihon T., Gazou H.:

脚注には、住所（和文、英文）を記入（各 1 行）する。

文字サイズ 8 ポイント、和文は明朝、英文 Times 系。

* 〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5

* 2-9-5 Honcho, Nakano-ku, Tokyo, 164-0012, Japan



2.0cm

サンプル

ハードコピー上とソフトコピー上における思考作業効率の比較

内山 直人*, 面谷 信, 高橋 恭介

*東海大学 工学部 光学工学科

Comparison of Thinking Efficiency between Softcopy and Hardcopy

Naoto Uchiyama, Makoto Omodani, and Yasusuke Takahashi

Department of Electro-Photo Optics, Faculty of Engineering, Tokai University

Information on VDT(Visual Display Terminal) is tend to be often printed as hardcopy only for the purpose of getting more comfortable reading conditions. Electric mail with large volume of texts, for instance, is frequently printed wastefully.

1. はじめに

最近では、インターネットの急速な普及等により家庭にまでもパソコンが普及し定着しつつある。これに伴って、・・・・・・に比較することを試みた。・・・・・・

そこで本研究では、まずソフトコピー上作業とハードコピー上作業を思考作業効率の観点から定量的に比較¹⁾することを試みた。・・・・・・ハードコピーの利点を持ち合わせた新しい媒体²⁾のコンセプトの必要条件について探ることも意図するものである。

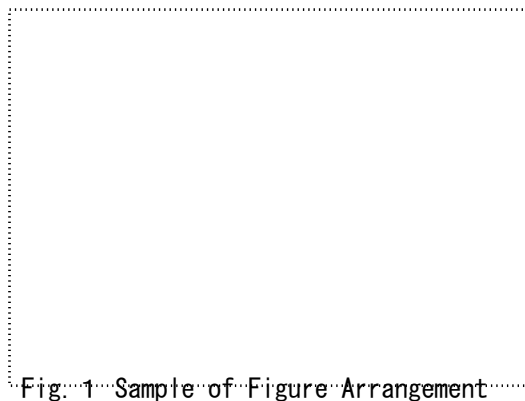


Fig.1 Sample of Figure Arrangement

2. 実験方法

2-1. 実験内容

被験者に対し、ハードコピー上およびソフトコピー上において簡単な文章問題を提示し、各々への解答に要した所用時間と正解率について比較・検討した。・・・・・・

Table 1 Sample of table

3. まとめ

本実験ではソフトコピーとハードコピーの媒体を各々水平・垂直の2状態においた計4種類の作業条件において、文章読解の作業を被験者に行わせ、読解速度・正解率についての客観定量評価、および被験者の感想を集計した・・・・・・

参考文献

- 1) 増田勝彦, 面谷信, 高橋恭介: “VDTとハードコピー上における思考作業効率の差に関する研究”, 第59回応用物理学会秋季学術講演会, p394(1988).
- 2) 面谷信: “デジタルプリンティング技術の最近の動向〜デジタルプリンティングからデジタルペーパーへ”, 電子情報通信学会技術研究報告, EID97-160, pp. 35-40(1998).
- 3)

*〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 1117

*1117 Kitakaname, Hiratuka-shi, Kanagawa, 259-1292, Japan